

横浜市青葉区民文化センター フィリアホール 令和元年度(2019年)事業報告書

1. 施設の概要	施設名	横浜市青葉区民文化センター フィリアホール
	所在地	神奈川県横浜市青葉区青葉台二丁目1番1号
	規 模	ホール:定員500席(1階384席、2階116席)
		リハーサル室:定員80名 練習室1~3:定員各10名
	延床面積	2,796.62㎡
開館日	平成5年5月1日	

2. 指定管理	法人名	東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体	
		代表企業:株式会社東急コミュニティー	
	所在地	神奈川県横浜市青葉区青葉台二丁目1番1号	
	代表者	代表企業:株式会社東急コミュニティー 代表取締役 雑賀 克英	
	設立年月日	第2期指定管理期間 平成30年4月1日	
	指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで	

3. 人員配置	要 員	人数	共同事業体所属会社
	館 長	1名	東急コミュニティー
	貸館業務責任者	1名	東急コミュニティー
	受付業務責任者	1名	東急コミュニティー
	管理運営責任者	1名	東急コミュニティー
	文化事業コーディネーター	1名	東急コミュニティー
	地域コーディネーター	1名	横浜市民施設協会
	会計担当者・事務担当者	2名	東急コミュニティー
	舞台管理スタッフ	3名	神 奈 川 共 立

4. 事業実績

(1)年間利用者数 77,990名 年間開館日数 : 347日

(2)施設利用実績 (注)利用実績には貸館及び自主共催利用を含む

施設種別	利用可能数 (コマ)	実績利用数 (コマ)	利用率 (%)	利用者数 (名)	備考・コメント
ホール	1,041	780	74.9%	50,231名	2月まで実績対前年 人数合計 +2,258名 3月対前年 人数合計 △9,859名 ホール △6,761名
リハーサル室	1,735	1,431	82.5%	17,854名	
練習室1	1,735	1,455	83.9%	2,704名	
練習室2	1,735	1,512	87.1%	3,374名	
練習室3	1,735	1,502	86.6%	3,827名	
合 計	7,981	6,680	83.7%	77,990名	対前年△7,601名

(3)自主事業実施総数

区 分	開催数	来場者数	
主催公演(コンサート系)	17	7,391名	鑑賞事業3月 2公演中止(延期)
主催公演(E&C系)	13	4,424名	アカデミー系6・ファミリー向け7・1公演中止
共 催 公 演	9	3,556名	共催事業公演 ・2公演中止
合 計	39	15,371名	
※地域連携関連	3	222名	オープナー1・他施設連携2・合唱団等中止2
※若手インキュベーション	3	465名	新規企画 実質共催対応
※スクエアアトリウム	3	390名	スクエア1階でのイベント 2月は中止

5. 委託収支状況

【収入の部】(税込) ※(注)増減:「決算」-「予算」にて算出

項目	予算額	決算額	増減	執行率
指定管理料収入	150,352,000円	150,352,000円	0円	100.0%
施設利用料収入	26,740,000円	25,890,290円	849,710円	90.1%
自主事業収入	45,652,000円	44,004,204円	1,647,796円	92.2%
その他雑収入	3,764,000円	5,014,477円	△ 1,250,477円	175.3%
合計	226,508,000円	225,260,971円	1,247,029円	97.9%

【支出の部】(税抜) ※(注)増減:執行率に併せ、「予算」-「決算」にて算出

項目	予算額	決算額	増減	執行率
人件費	86,494,000円	86,494,000円	0円	100.0%
事務費	9,755,000円	10,453,916円	△ 698,916円	107.2%
旅費	2,590,000円	2,203,647円	386,353円	85.1%
消耗品費	1,010,000円	1,628,706円	△ 618,706円	161.3%
印刷製本費	665,000円	612,041円	52,959円	92.0%
通信費	2,148,000円	2,372,487円	△ 224,487円	110.5%
備品購入費	250,000円	604,310円	△ 354,310円	241.7%
図書購入費	25,000円	19,700円	5,300円	78.8%
施設賠償保険	98,000円	66,065円	31,935円	67.4%
リース料	2,369,000円	2,381,249円	△ 12,249円	100.5%
手数料	600,000円	565,711円	34,289円	94.3%
事業費	53,062,000円	52,192,787円	869,213円	98.4%
管理費	57,631,000円	56,447,647円	1,183,353円	97.9%
光熱水費	9,448,000円	8,529,187円	918,813円	90.3%
清掃費	3,185,000円	3,102,000円	83,000円	97.4%
修繕費	3,000,000円	2,959,260円	40,740円	98.6%
設備保全費	3,598,000円	3,457,200円	140,800円	96.1%
共益費	38,400,000円	38,400,000円	0円	100.0%
公租公課	11,639,000円	11,466,000円	173,000円	98.5%
消費税	11,579,000円	11,439,000円	140,000円	98.8%
印紙税	60,000円	27,000円	33,000円	45.0%
事務経費	7,927,000円	7,664,353円	262,647円	96.7%
本部分	6,881,000円	6,881,000円	0円	100.0%
当該施設分	1,046,000円	783,353円	262,647円	74.9%
合計	226,508,000円	224,718,703円	1,789,297円	101.9%

【収支】(税込) ※(注)増減:「予算」-「決算」にて算出

合計	0円	542,268円	△ 542,268円
----	----	----------	------------

●第2期の基本方針 確認

青葉区民文化センターは第2期のテーマとして、以下のようなものを掲げました。

『青葉区民文化センター・フィリアホールの第2期指定管理者としての基本』

“フィリアホール”と“青葉区民文化センター”の二つの顔をめざして～地域を『繋げる』フィリアホール～

1. 二つの顔の青葉区民文化センター

「文化を発信するフィリアホール」と「地域と連携協働する青葉区民文化センター」の「二つの顔」が理想。
「フィリアホール」の文化事業は、実績を継続・発展、「青葉区民文化センター」は、地域と協働し「音楽」で気軽に感動を与える。文化発信と地域コミュニティ形成を繋げて、地域の重要な拠点となることを目指す。

2. フィリアホールの文化事業活動

『「コンサート・シリーズ」と「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」の二軸を中心とした文化事業』

コンサートシリーズ:クラシックコンサートを中心とした文化芸術鑑賞機会を幅広い層に提供。

●最高峰のアーティストによるコンサート、気軽に音楽と親しむ企画により新規顧客開拓。新年企画や他館連携、区や市連携などの特別企画。共催公演も内容を吟味し、より良い企画提供。

エデュケーション&コミュニティ・プログラム:人材育成/地域型プロジェクトを体系的に実施。

●教育系プログラムは対象層ごとに位置づけ。幼児と家族向け、本格的アカデミー系、地域密着型企画に取り組む。音楽を通じてコミュニティに参加できる幅広い層の包摂をめざす。

3. 青葉区民文化センターの、地域コミュニティ・文化的コモンズ形成の牽引役としての活動

『キーワードは「ふれあう」「支える」「活動する」「集う』

地域課題やニーズを把握し、「音楽」を通して活動し、地域に貢献する企画により、地域の人々との協働を目指す。

(1) 地域と連帯し、地域課題に取り組む

地域の課題に向き合い、地域コミュニティを支える施設や人々とのネットワークを作り、それを繋げ、音楽で地域を繋げる地域コモンズ形成の牽引役。

(2) 市民協働・活動支援・人材育成での基本方針

コンセプトを共有するネットワークづくり。ネットワークを活かし各々の特色を活かした活動をサポート。「協働していける人」の育成活動。

平成31年度(2019年)の位置付け

第2期2年度目は、初年度の結果及び反省を踏まえて、主要事業の継承・発展と共に、施設利用の促進・文化事業での集客を図り、「確実な収益」の確保・安定化を命題としていきます。初年度スタートした様々な地域事業への取り組みを、2年目はさらに発展充実させ、今後の指針となる体制固めをしていきます。

●鑑賞型事業「コンサートシリーズ」は、初年度の厳しい集客結果の反省も踏まえ、公演数を20本程度、開催時期にも考慮して事業収支の安定化を目指す。青葉区区制25周年に当たり、公演に応じて区制記念の冠をつけた公演を展開。販促広報策を駆使し、集客を安定させ、お越しいただく方を増やしていく方策を展開。鑑賞型とエデュケーションの二軸で、魅力ある文化事業の展開を図ります。

●「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」では、アカデミープログラムを増やす。夏冬のファミリーコンサートに加えて、幼児やママさん向けプログラムを展開。コミュニティプログラムでは、若手音楽家の発表、育成の場としても活用し、地域連携型の内容も織り込んでいく。気軽に音楽に触れるプログラムとして、参加体験型や子育て支援などの課題取り組みの企画を展開。

●地域コミュニティ形成事業では、初年度の実績を基礎にさらなる活動領域の拡大を目指す。初年度に区民の力を発揮した新区民企画を2年目も公募し、区民の力を借りて、実践型の地域連携を実施します。区民サポーターの活動の充実、地域人財との協働はより充実前進した体制を作る。

●施設運営では、より多くの方々にご利用いただけるような様々な取り組みを模索。ホールを含む空き室の広報(HPやロビー掲示)やリハーサル室・練習室平日夕夜間の利用促進を進める。

●防災上の観点からも、ご利用人数の正確な把握を課題とし、ご利用者からの申告確認を徹底します。利用申告用紙を利用して、日常的にご意見ご要望を収集するためのご意見欄を設けます。頂いたご意見への回答も掲示します。

●施設管理面では、日常的な保守管理を徹底。経年劣化部分の中期的な修繕計画を立案します。年間費用を有効的に使用して、「安心・安全・快適」な施設環境を維持します。電気料金の上昇は、様々な経済状況によるも、LED化推進、水道設備の改善なども行いながら、日常的な「節電」「節水」に心がけていきます。

令和元年度(2019年)の全体総括

第2期2年目は、平成から令和へと移り、新たな取組も多く実施ができました。初年度の反省を踏まえて収益の安定化を目指すとした令和元年は、その結果として、自主事業のチケットは予算を大幅に超え、施設利用においてもホールの稼働が順調に進みました。地域連携事業においても、区民企画の充実、地域施設との連携も進み、多くの実績を残しました。残念ながら、年度末の3月は「新型コロナウイルス」による「利用自粛やイベント自粛」により、コンサート系はほぼ全面中止(延期)となってしまいましたが、今年度は自主事業・施設利用・地域事業のすべての分野で、第2期のフィリアホールが目指すべき形の基礎が作れる結果となったと思います。年間収支においても、大幅に改善し、バランスの良い収支となっています。

第2期の二つの顔のスローガンが実践されつつあると感じる年になりました。

以下、全体的な総括を記し、個別の事業での詳細な総括は各事業にて行います。

- ・「コンサートシリーズ」は、主催17本(3本延期)、共催9本(2本中止)。青葉区制記念を冠にした3月のコンサートは残念ながら延期となりました。主催公演は中止延期の3公演を含め20本中、予算枚数に満たなかった公演は1本のみ。多くの公演で「完売」の実績を残しました。共催公演の横浜音祭り関係では、著名なアーティストの出演もありました。「エデュケーション&コミュニティ」では、アカデミー系企画を5本(1本中止)実施。新企画にも取り組みましたが、予想通り集客には至りませんでした。今後企画の目的とターゲットの検討が必要です。ファミリー、幼児向け企画はいずれも好調でした。幼児対象の企画でも新たな視点や内容を加えています。若手音楽家育成では、音楽家に「自分で企画させる」という新たな視点を導入し、自ら企画し、集客も含めて自立した企画を実践しました。自主事業の本数を若干減らしたのと開催時期を可能な限り分散させるようにした企画と時期分散が先行予約等が平均的に購入できるようになったこと、そして媒体利用等で一般販売での効果的な販促広報ができたことなど、全体として機能した結果が好結果に結びついたと思われまます。
- ・地域コミュニティ形成・地域事業は、今年度もより積極的に多くの企画を実施できました。区民企画は、しっかりした規模内容のものが実施されました。2つの企画では、「障がい児・者」をテーマに掲げ、来場者も多く、地域への貢献ができていました。地区センターなどの地域施設との連携は数が格段に増え、また内容も充実しています。コロナの関係で3月予定の企画は中止延期となりました。ケアプラザとの連携企画で3月恒例のおおばカノンも残念ながら中止になってしまいました。地域を繋げるという目標を実現できています。区民サポーターの活動も人数も増え、公演時のサポートなど活動回数が増えてきました。また今年度も研修を実施し、人材育成にも取り組みました。
- ・施設運営では、空室広報をHPや掲示にて定期的に掲載。利用促進で結果が出るようになりました。ホールの稼働では、3コマすべて利用の団体は多くありませんが、自主企画も含めて、稼働日で見るとほぼフルに稼働が進んでいます。空き日を利用した新たな試みとして、神奈川音楽コンクールの主催者と連携して、コンクール出演者への練習利用日を設定し、利用者からも好評でした。リハーサル室での夜間を中心とした「定期利用」の試みも実施してみました。リハーサル室でのミニコンサート・発表会での利用も増えているように思います。リハーサル室・練習室も、90%近い稼働を達成しています。コロナ関連で自粛要請をする中で、多くの利用者が定期的に月数回利用していることを改めて実感できました。
- ・当日利用人数を申告してもらう方法の導入により、利用人数の詳細把握が可能となっています。その申告用紙の裏面を利用して、ご意見ご要望を常に受け付ける方法も定着しました。ただ年間でのご意見が少なくなってきたため、今後新たな方法も検討する時期だと感じます。
- ・施設管理面では、日常点検・維持管理については、大きな問題は出ていません。ホールヤマハグランドピアノも、定期保守に加えて、2か月ごとに調律を行い、状態維持に努めています。リハーサル室のピアノの劣化が進んでいるとの指摘に対して、今後抜本的な対策を検討します。修繕工事も予算内で実施し、LED化推進や懸案だった舞台扉の改修も実施しました。経年劣化が進み、不具合発生が多くなっていますが、2022年の天井改修工事まで、大規模な改修工事は控え、取替修繕などの対応を進めていきます。光熱水費は、使用量は3月が例年の半分程度だったこともあり、年間でほぼ前年並み。電気代単価も落ち着いており、使用料金も結果は前年並みで推移しました。

Ⅰ. 令和元年度(2019年)文化事業報告

令和元年度文化事業の基本的方針

平成31年度(2019年度)は、培ってきたホール・ブランドイメージの維持発展と地域密着型企画を展開。コンサートシリーズは初年度の収益不振の克服に向け、適切な販促、集客策を講じ、これまで以上に安定した事業運営を心がける。エデュケーション&コミュニティ分野では、「地域に開かれた区民文化センター」としての役割を意識し、企画のブラッシュアップを図る。若手育成企画を充実させて実施します。地域と連携した幼児向けやファミリー向けの企画もさらなる充実を図る。

2. コンサート・シリーズ

フィリアホールが市内を代表する文化拠点との自覚を持ち、ブランドを維持し、区民ニーズに応えた地域が誇れるホールを目指す。高品質な文化芸術鑑賞機会を提供するコンサートシリーズでは、媒体を活用した広範囲への販促告知を実施し、加えてクラシック音楽へのハードルを高く感じている層を含めた幅広い顧客向けに、会報誌や地域での講座などを通してアプローチしていきたい。

○2019年度の主なシリーズの概要

《女神との出逢い》シリーズ

フィリアホールのメインシリーズ。作曲家を絞ったシリーズ企画も展開。定評あるアーティストで集客を見込むほか期待の新人も迎えホールの新規顧客層の開拓も目指します。

《ただひとつの世界》シリーズは世界最高峰のアーティストを招聘し、ホールのブランドイメージを高める企画。年間1本に絞り、フィリアホールならではの最高峰の音楽をお届けします。

《ランチシリーズ》は平日の昼1時間で1,500円。気軽に上質な音楽に触れるコンサートとして、幅広い顧客へアプローチ。毎年6本を開催。

《トーク&コンサートシリーズ「マイ・フィールド」》は、休日昼の90~120分コンサート。アーティスト自身によるトークと演奏を楽しむトーク&コンサート。アーティストの人生観、音楽観を自らの言葉で話すことで聴くだけではない「人間としての」より深い体験をご紹介します企画。

《特別企画》として、毎年恒例のニューイヤーコンサートでは日本を代表するピアニスト横山幸雄によるモーツァルトの協奏曲3曲全曲演奏を。また青葉区制25周年にあたる本年は記念コンサートを3月に予定、青葉ブランド選定委員でもある地元ゆかりのアーティスト・千住真理子(Vn)を招いた特別企画。

3. エデュケーション&コミュニティ・プログラム

エデュケーションプログラムでは、小さいお子様と家族向けの企画、一流演奏者によるマスタークラス企画、そしてコミュニティ形成にかかわる地域密着型企画の3つの軸をベースにプログラムを実施。コンサート・シリーズと連携を図り、音楽を通じてコミュニティに参加できる企画を考える。

○2019年度の主なシリーズの概要

「ミュージックアカデミー・プログラム」は、音楽を学ぶ特に学生を対象としたマスタークラス&コンサート企画。若手音楽家の発表の機会、そして生涯学習的プログラムを提供します。定番企画のほか、今年はアカデミー系を充実させる。地域の管・打楽器を学ぶ学生向けの「ウィンドアンサンブルクリニック」や「室内楽アカデミア」で若手発掘にも取り組む。

「キッズ&ファミリー・プログラム」では、子どもの感性の育成に役立つ機会を提供する一方で、保護者層に子どもとの思い出になる時間を提供します。若手アーティストを積極的に起用し発表の場として活用します。夏と冬のファミリーコンサート、ホワイエでの「プチ・コンサート」、幼児向けの企画などを展開します。

「地域コミュニティ・プログラム」では、昨年度から実施した区民提案型企画を今年度も公募。区民自らが立案・実施する地域のニーズや課題を解決することを意識した地域密着型企画を実施。地域事業の一環としてのプログラム展開を図りたい。

地域の小中学生で結成された「フィリア・ジュニア合唱団」は、運営委員の活動も定着し、引き続き「区民によって企画運営する」活動として積極的にサポート。各種のアウトリーチ活動も積極的に行う。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業による小中学校へのアウトリーチ活動を引き続き継続。加えて、地域諸施設へのアウトリーチ活動や提携企画も、昨年度以上に発展拡大。

4. 国内・地域で活動する優れた音楽団体との共催事業の実施

国内外の優れたアーティストによるリサイタル、地域の一ケストラ公演など年間20本程度実施。従来のネットワークを生かし、ホール主催では実現が難しい幅広いジャンルの文化芸術を提供。従来貸館で実施してきた優良公演も積極的にサポート。

『令和元年度文化事業の全体総括』

・文化事業詳細実績等は(別紙1)公演内容詳細にて報告

◎コンサートシリーズ

- ・自主共催のコンサートシリーズは、公演数の若干減、開催時期の分散、積極的な販促等、昨年度からの反省を踏まえた企画及び活動により、ほぼすべての公演で予算を上回りました。450名を超す完売近い公演も数多くあります。残念ながら、3月の公演はコロナで中止となったが、すべて延期日程を確保し、2020年度にて実施予定です。今年度の結果は、企画と販売と広報がうまく連携した結果で、今後の体制の基盤とすることができるものになりました。
- ・公演内容はフィリアホールの鑑賞事業にふさわしい、良質で感度の高い企画を実現でき、ご来館のお客様にはいずれも好評でした。「フィリアホールの顔」は、高品質な芸術発信というホールの使命を十分に果たしている結果となりました。JUST ONE WORLDシリーズは、今回も9500円という高額チケットで、女神シリーズと2日続けての開催となりましたが、販売時期の分散による対応がうまく出来て、巨匠の魅力は販売後1ヶ月でほぼ完売という結果につながっています。フィリアブランドのイメージアップにつながるものです。
※公演毎の詳細報告は別紙1にて記載します。
- ・販促策として、積極的に新聞媒体や音楽雑誌などに掲載し、マスメディア利用での集客も好結果につながりました。あおば広報を通じて、区民招待なども随時実施し、毎回多くの方から応募いただきました。抽選後の落選者への割引販売、もご希望者が多くなってきています。地元タウン誌などにも積極的な情報提供を行いました。

◎エデュケーション&コミュニティ・プログラム

- ・エデュケーション&コミュニティ・プログラムでは、新規企画や今迄からの内容変更等、新たな取り組みを実施。ミュージックアカデミープログラムは7公演。定番の2公演は集客も好調だったが、他は「集客」という点では苦戦が目立った。アーティストのトークを交えた企画は、お客様意見として本格的なりサイトを期待する声が見られ、コアなファンに対するコンサートテーマの創り方と一方で「興味喚起、生涯学習講座的」意味づけとの両立が課題になります。小中学生向けのクリニックは、集客とは別の意味付けを重視するか考えます。昨年名称を変更して開催した室内楽アカデミアは、サブタイトルに従来のドリームコンサートを復活させ、集客効果を上げる努力をしました。直前でコロナ感染拡大による延期が決まり、当日は無観客で出演者たちのみの演奏会を実施しました。
- ・若手音楽家育成企画は、新たに「若手インキュベーション・プログラム」と題して、企画の公募採択という形式により、場の提供ではなく、企画から集客実行までを公募する形式を実施しました。3公演が実行されました。音楽家育成とはいえ、演奏場所の提供ではなく、自前で企画・広報・集客といった体験をさせることを主眼としたものです。
- ・地域課題を意識したコミュニティ形成に係る各種企画では新たな内容にもチャレンジし、一方で対象年齢の区分、内容、開催時間等検討すべき課題も生まれています。多くの方が参加される幼児・ファミリー向け企画では、「マンネリ化」が最大のポイントであり、常に変化改善させていく必要があるようです。2年目の新区民企画は今年度3本を採用しました。企画自体は区民の意識の高さを感じられるものでした。
※地域コミュニティー関連の詳細は、「地域事業総括」にて記載します。

(別紙1) 令和元年度(2019年)自主事業 公演内容詳細

文化事業 コンサートシリーズ						
No	出演者・公演名	※回数表示はシリーズの通算回数	開催日	入場者数	券売数	コメント
土曜ソフレスシリーズ 《女神との出逢い》						
1	第280回 河村尚子「ベートーヴェン・ピアノソナタ・プロジェクト」第3回 (全4回)		4/13(土)	399	421	12月の「三浦友理枝」以外は券売はきわめて好調で、8公演中6公演が完売達成。平均値では、455枚となり昨年を3割増。入場者も430名程度。今年度自主事業の好調さを代表する結果となった。昨年から引き続いた「河村尚子」、定番の「仲道郁代」は好評持続。「吉野直子」は世界を代表するアーティストの共演で完売に。7月・9月の公演は当初の鈍い出足を最後の伸びで挽回していった。テレビ等の露出が増加していた「木嶋真優」はやはり好調な結果。いずれも、「女神シリーズ」への期待が高いことを証明し、またそれに値する内容のコンサートが実施できた。コロナウイルス感染拡大初期に2月の公演が開催出来たことは幸運だった。
2	第281回 仲道郁代「シューマン 300日の物語」第1回 (全4回)		6/15(土)	444	481	
3	第282回 米元響子・菊池洋子・上村文乃トリオ		7/27(土)	457	456	
4	第283回 ヴェロニカ・エーベルレヴァイオリン・リサイタル		9/7(土)	454	470	
5	第284回 河村尚子ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ・プロジェクト最終回 (全4回)		10/26(土)	454	491	
6	第285回 吉野直子&エマニュエル・パユ ハープ&フルートデュオ・リサイタル		11/23(土)	459	486	
7	第286回 三浦友理枝ドビュッシー・ピアノ作品全曲演奏会第1回 (全4回)		12/7(土)	361	355	
8	第287回 木嶋真優&イリヤ・ラシュコフスキーヴァイオリン&ピアノデュオ・リサイタル		2/15(土)	447	481	
JUST ONE WORLDシリーズ 《ただ一つの世界》						
1	第22回 ミハイル・ブレトニョフ ピアノ		6/16(日)	470	480	販売期間が短かったものの、販売前広報も功を奏し、発売後1か月弱で完売。通常1,000席以上のホールでリサイタルを行う巨匠の登場で、ホールブランドイメージ向上にも貢献。
ウィークデーコンサートシリーズ 《らん・らん・ランチにいい音楽》						
1	第58回 藤田真央 ピアノ		5/22(水)	455	491	ランチコンサートも平均販売は450枚に達し、以前の人気シリーズが復活できた。「藤田真央」は、コンクール優勝等で熱狂的なファンがいたこともあり、早期に完売を達成。それ以降も完売状態が続いた。10月の「酒井淳」は珍しいバロック古楽器の企画だったが、事前に楽器紹介の講座などとの連携が結果をもたらした。気軽に聴ける価格設定にもかかわらず、内容は非常に高品質のものを提供している点が評価されている。3月は残念ながら来年度に延期。
2	第59回 トリオ・アコード ピアノ三重奏		8/26(月)	450	486	
3	第60回 フレディ・ケンピ ピアノ		9/19(木)	442	491	
4	第61回 酒井淳&マリオン・マルティノー&クリストフルセ ヴィオラ・ダ・ガンバ&チェンバロトリオ		10/17(木)	410	411	
5	第62回 弓新 ヴァイオリン		11/6(水)	370	400	
6	第63回 岡本侑也 チェロ		3/11(水)	延期	435	
土曜ティータイムコンサートシリーズ 《音楽のある風景》						
1	第7回 荘村清志「ギターと共に50年」		2/1(土)	393	417	開催時期が新型コロナウイルス感染拡大中の2公演で、3月の「館野泉」は残念ながら延期。「荘村清志」は追込みの販促があと一歩だった。
2	第8回 館野泉「北欧の地に生きて」		3/29(日)	延期	428	
神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ《名曲の午後》						
1	第12回 「チャイコフスキーの『フィレンツェの思い出』」		7/24(水)	461	471	出演料を抑制した分、チケット料金も昨年より値下げ(2年前の水準に戻る)、早いタイミングで完売。石田氏の人気を改めて感じさせた。
ニューイヤー・ガラ2019						
1	《モーツァルト饗宴》横山幸雄ピアノ N響メンバーによる室内オーケストラ		1/11(土)	465	472	ニューイヤーは今回も完売。少しゆっくりした販売ペースではあったが、横山幸雄のネームバリューとオールモーツァルトプログラムが功を奏した。
青葉区制25周年記念コンサート						
1	千住真理子イザイ無伴奏ヴァイオリンソナタ全曲演奏会		3/7(土)	延期	473	区制25周年記念で区ゆかりの千住真理子のリサイタルだったが、中止。次年度に冠は外すが同内容で実施予定

文化事業 エデュケーション・アカデミープログラム						
No	出演者・公演名	※回数表示はシリーズの通算回数	開催日	入場者数	券売数	
ミュージックアカデミー・プログラム						
1	山崎伸子プロデュース 輝く若手演奏家による《未来に繋ぐ室内楽》Vol.4 葵トリオ		4/24(水)	464	478	「葵トリオ」はシリーズ最高枚数を達成(完売)。11月の「白熱教室」も引き続き好調で、昨年同様終演後の募金も初回並の金額になった。1月の2公演は、集客面では苦戦。アカデミーというテーマと「コンサート」という内容のより綿密なマッチングが課題。「須川展也」企画では、一般市民も参加する内容で、参加者からは大好評を博した。中高生向けクリニックは、一般参加は少なかったが、参加者には内容の高いものが実施できた。
2	中高生のための管楽器アンサンブル&打楽器クリニック「フィリア・ウィンド・アンサンブル・クリニック202」		10/19(土)	106	9	
3	マエストロの白熱教室2019 ~指揮者・広上淳一の音楽道場		11/10(日)	389	462	
4	渡辺玲子×小林美恵×近藤嘉宏「V(ヴァイオリン)&V(ヴィルトゥオーゾ)！」		1/18(土)	245	226	
5	須川展也のサクソフォン・ワールド!		1/25(土)	418	421	
6	未来にはばたくドリームコンサート2020室内楽アカデミア第2期生披露コンサート		2/29(土)	延期	193	
7	「未来にはばたくドリームコンサート」「室内楽アカデミア」修了生による「ショーケース・コンサート2019」		11/16(土)	52		
キッズ&ファミリー・プログラム …個別詳細は地域事業報告にて						
1	0歳からのキッズのためのプチ・コンサート(2019年夏)		6/11(火)	205	205	2回とも募集後すぐに満席に。年齢別区分などは前年同様。募集と当日参加で若干開きがあるため、募集締切基準は要検討。
2	0才からのキッズのためのプチ・コンサート(2019年秋)		9/10(火)	192	192	
3	0才からOK はじめてのバロックコンサート&講座「ヴィオラ・ダ・ガンバとその時代」		10/7(月)	211	77	ワークショップ系企画では2件が恒例の「おとみつく」による企画。2月のパパとの企画は多少コロナウイルス感染拡大の影響あり。10月はバロックという異色の企画。フィリアホールのスタッフが出演。
4	親子でおとあそびおとみつくたいむ-冬の世界へ出かけよう-		12/21(土)	51	51	
5	おとみつくパパとおとあそび		2/23(日)	38	38	
6	夏休みファミリー・オーケストラ・コンサート2019 "ウィーン&ザルツブルク音楽の都へようこそ!"		8/3(土)	867	894	夏のファミリーは毎回好評。クリスマス公演は従来に比べ苦戦。広報販促に従来からの変更はなく、コンテンツの内容に課題があると認識。
7	親子のためのワンダー・キッズ・クリスマス・コンサート2019		12/14(土)	648	640	
地域コミュニティ・プログラム …個別詳細は地域事業報告にて						
1	フィリアホール・オーブデ-2019		8/2(金)	600	360	恒例企画。今年も盛況

2	第6回フィリア・ジュニア合唱団コンサート♪ひろげよう青葉のハーモニー♪	3/22(日)	中止	176	コロナで中止・合唱団活動は活発化
3	フィリアホールを知ろう！ ガイドツアー&講座	5/21(火)	52		東急BEとのタイアップ企画
4	フィリアホールで手作り太鼓を作ってみよう！	8/6(火)	170		地域施設との連携で製作から演奏まで
5	地域連携チャリティー あおばカノン2019	3/8(金)	中止		ケアプラザ連携もコロナで中止に

若手演奏家インキュベーション・プログラム2019年度採択企画

1	0歳から愉しむ！～秋の音楽会～ピアノ・ヴァイオリン・クラリネットによる	11/26(火)	150		初開催の公募による若手演奏家企画。11月開催の第1回は人気の子ども向け企画、練られた広報の甲斐もあり初回にしてかなりの集客を達成。2/4チェルカトーレは出演者にドリーム修了生が参加。「ペンタス」もコロナ対応の中で無事実施。
2	チェルカトーレ弦楽四重奏団	2/4(火)	153		
3	ペンタス合奏団「どうぶつカーニバル！」	2/24(月)	245		

共催公演

神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ《名曲の午後》 共催公演

1	第13回 「シェーンベルクの『浄夜』」【共催】	10/3(木)	294	302	主催と共催で1回ずつ開催。若干苦戦したものの、コアなファン層に支えられて好評であった。
---	-------------------------	---------	-----	-----	---

横浜音祭り2019

1	横浜18区コンサート 阪田知樹ピアノリサイタル	10/22(火)	416	90	話題の高い音祭りは、大半が主催者側で販売。集客は好調であった。実施費用の立替などもあり、今後「音祭り」企画については収支面での条件・スキームを検討する必要がある。
2	石丸幹二プレミアム・デュオ・コンサート	11/4(月)	441	18	

その他共催

1	ラトヴィア放送合唱団	6/4(火)	470	359	共催公演も若干本数を減らしたものの、好調な結果となった。6月の「ラトヴィア放送合唱団」では、主催者からの提案で、貸館で利用している合唱団にチケット割引斡旋を販売。「アナ・ヴィドヴィチ」もソロでは2回目の出演で完売を達成。10月は若干苦戦したが、コアな出演者ファンを中心に内容は非常に好評。12月の「ベルリン」は、前回は上回り、名曲が好感された。3月の2公演は、新型コロナ感染拡大の影響で中止となった。
2	アナ・ヴィドヴィチ ギター・リサイタル	6/21(金)	466	489	
3	ARCUS(アルクス)第10回演奏会「金持ちと貧乏」	8/31(土)	327	276	
4	パスカル・ロジェ ピアノ・リサイタル	9/24(火)	463	349	
5	カール＝ハインツ・シュッツ フルート・リサイタル	10/8(火)	271	276	
6	ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ	12/6(金)	408	364	
7	チェコ・フィル・ストリング・カルテット	3/16(月)	中止	350	
8	ConcertforKIDS～0歳からのクラシック®～	3/28(土)	中止	56	

アウトリーチ活動

<横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校訪問事業>

1	みたけ台小学校 市川和彦(トランペット)ほかクラリネット・ピアノ	12/3(火)	学校別の詳細は地域事業報告にて		
2	谷本小学校 松田理奈(ヴァイオリン)	11/25(月)	学校と事前に綿密な打ち合わせを行い、訪問アーティストも交えて、趣旨目標を明確にした上での実施を心がけた。プロの演奏を生で身近に聞くことでの経験はもちろん、音楽を身近に感じてその楽しさや音楽への関心などを高めてもらえるように考えて実施した。		
3	美しが丘東小学校 篠崎陽子・齋藤綾子(打楽器)	9/19(木)			
4	奈良小学校 宮田まゆみ(笙)	12/16(月)			

<地域連携に係るアウトリーチ>

青葉台東急スクエア1階アトリウムコンサート

1	マリンパデュオ プリマステラ	8/11(日)	青葉台東急スクエア1階アトリウムでのコンサート。東急電鉄からの協賛条件として、東急スクエア販促担当部署との協力により、年間4回程度を実施。基本無料で1日2回のコンサートを実施。基本は若手音楽家を主に起用しての企画だが、12月はクリスマスファミリーコンサートの出演者によるコンサートを実施。		
2	フィリア・サクソ・バンドメンバーによるサクソフォン・カルテット	10/20(日)			
3	浅野高瑛とハートフル・フレンズメンバーによる金管五重奏	12/24(火)			

他施設連携でのアウトリーチ(出演者コーディネート等)

1	地域施設へのジュニア合唱団出演	他施設へのアウトリーチの詳細は地域事業報告にて。地区センター・ケアプラザなどでのコンサートや講座展開。 詳細は地域事業にて報告			
2	ケアプラザ:さつきが丘(10/27)・恩田(12/5)・すすき野(2/25中止)				
3	地区センター等 青葉台コミュニティハウス(1/22)・・・文化事業担当芥川による音楽講座 若草台(11/9)・美しが丘西(3/9)・奈良(3/14)・山内(3/22) 但し3月予定の3施設はいずれも中止				
4	山内地区センターへの出演者コーディネート 三曲協会 (2/13)				

その他特別協力

1	TSUKEMEN	1/26(土)			
2	MIYABI	3/21(木)			

Ⅱ. 令和元年度(2019年)地域コミュニティ事業報告

令和元年度の基本方針

初年度の活動で得た経験、課題、ネットワークと地域の人材を活用し、より充実発展した活動を目指す。そして、第2期の全体につながる基盤づくり、基礎固めをする年度にするようにしていく。

「音楽芸術」というアイテムを使い、「ふれあう」「支える」「活動する」「集う」場をより多く提供することを目標に、「地域連携」を明確な柱として、区民と協働した運営活動を目指す。

具体的には、文化事業と連動したエデュケーション&コミュニティプログラム、今年度も実施の区民企画、さらに、若手音楽家や地域人材の育成、そして地域の様々な施設や団体との連携共同企画などを実施。

1. 地域活動で目指す課題の設定

地域活動をするにあたり、様々な課題へのアプローチを掲げた。以下の各項目を設定し、各事業ごとにその活動がどの課題にアプローチするものかを考えながら、活動内容を設定。

★子育て世代へのアプローチ	★青少年へのアプローチ	★シニア世代へのアプローチ
★社会的包摂を考えた人達へのアプローチ	★市民協働	★地域施設連携(コミュニティ)

地域コミュニティ形成・地域コモンズ形成に大切な課題ばかり。課題やテーマに沿って、様々な活動を展開。

2. 文化事業とも連動する活動

●エデュケーション&コミュニティ・プログラムとの関連事業

文化事業のエデュケーション&コミュニティでは、鑑賞型や教育型に加え、地域とのつながりを考える「コミュニティ」プログラムを提供。このプログラム展開は、まさに「二つの顔」がともに互いの力を発揮し、連携しあう事業活動だといえる。

●市民協働型事業の推進

地域コミュニティ形成の中心となる、「市民協働」型事業。初年度は、区民の力を結集した企画が実施された。その過程にあつて、色々なネットワークが形成され、更なる連携へのスタートができています。今年度はそこからの発展を目指す。

●地域連携・アウトリーチ活動

地域に音楽をという趣旨のもと、様々な施設や団体と連携協力。学校訪問や、色々な場所に積極的に出向く活動を展開。

●市民協働・人材育成に向けた活動

地域事業の活動を地域の住民と連携し充実させていく。地域人材を育成していくことも重要な役割と意識する。

●市民主体の活動への支援協力サポート

初年度はできなかったデータベース「フィリアホールアーティスト・アーカイブス(仮)」の完成を目指す。個人・団体から、賛同を得られた団体・個人等を「登録アーティスト」として登録。

ホール利用申請から本番まで、施設利用責任者、舞台技術スタッフが、詳細な相談・アドバイスを実行。技術的提案、舞台設営の方法や進行管理での相談も受けていく。

チケット委託公演の情報を、WebやSNSで公開し、紙媒体の「イベントカレンダー」等も含め、利用をバックアップ。

人材育成・支援活動として、団体や地域の方々の相談窓口と人材の育成拠点として具体的な事業項目の検討。

『令和元年度の地域事業総括』

1. 青葉区民文化センターの顔としての活動: 全体総括

初年度から地域コーディネーターの持つネットワークや施設連携により、具体的な企画が実施できましたが、2年目はさらに積極的な企画提案、内容の充実などを目指した活動を展開できました。文化事業連携のコミュニティプログラムの幼児向け企画では、親子で楽しむ趣旨を活かしつつ、子育て応援のメッセージを込めた構成については、お母様方からの癒されたという言葉を多くいただいています。若手音楽家育成企画は、新たに「若手インキュベーションプログラム」と題し、単なる発表の場提供ではない、実践的な育成企画を実施しています。市民協働の象徴となる区民企画の2年目も3企画実施され、その中の2件が「障がい」をテーマに実際に障害を持った方たちが集う場を実現しています。地域施設連携は、より充実さを増し、アーティストの紹介だけでなく、企画毎提案し共催形式の物も実施しました。コロナ感染拡大の影響で、ケアプラザ連携の「あおばカノン」を含めて、2~3月の企画が中止となってしまったのが残念です。

2. エデュケーション&コミュニティプログラムでの実践

●オープンデーと夏冬のファミリーコンサート

夏のオープンデー・ファミリーコンサートは、今年もたくさんの来場者が来られ、楽しんでいただけた。冬のクリスマスコンサートは、少し集客面で苦戦しました。夏冬ともに、今後内容の検討や対象年齢の明確化・開催時間等の検討が必要と感じます。

●プチコンサート・ワークショップ系

プチコンサートは春秋2回。2回公演のうち午前の部はいずれも100名(親子で)を超す盛況。障害のある子たちへもアプローチした。同じ0歳からを対象にして秋には「バロック音楽」の企画を実施。珍しい楽器による異色のコンサートを実施しました。

親子で楽しむワークショップも年3回開催。2回は同じ出演者で、そのうち1回はパパと子を対象に実施。(2月後半だったためコロナの影響で規模は縮小)夏の手づくり太鼓の企画は、昨年に引き続き、地区センター連携で太鼓を作成し、最後ホールで楽しむ企画で、2回目も好調に開催ができました。

●ジュニア合唱団の活動

小中学生によるジュニア合唱団の活動も、毎月の練習、対外的な活動も充実してきました。運営指導に当たる講師の方や運営委員の人たちも熱心に活動しています。地域へのボランティア演奏や著名なアーティストとの共演も経験する機会を設ける事が出来た。集大成となる3月のコンサートがコロナで中止となったのは非常に残念です。

3. 市民協働・人材育成

●第2期新企画「区民企画募集と実施」

応募された企画を選定し、全面サポートで実施する「区民企画」は2年目も3団体が実施。

継続企画:2回目の地域デビューをキーワードにした「街レコ」地域の団体の紹介の場づくり。

新規企画:①障がい児・者をキーワードにした「おとのわ」。こちらは出演者にもハンディを持った方たちが参加。

②障がい児・者をキーワードにした「愉音」。企画者が活動支援センターなどで協力団体を募るなど、市民参加型企画を実践しています。一流のアーティストにより、子どもも大人も、そしてバリアフリーコンサートでは舞台上に車いすごと参加という素晴らしい企画でした。

●区民サポーターの活動充実

総勢26名が登録。公演プログラム準備や公演当日のサポートを主な活動とし、オープンデーや親子向け事業では大きな戦力となっています。接客マナーや高齢者疑似体験等、人材育成に繋がる講習も実施しました。

●若手音楽家の育成

「若手音楽家育成」の活動として、今年度から「若手インキュベーション」というタイトルで、35歳以下の若手演奏家や企画者が自ら企画制作する内容を公募。利用料等の免除によりサポートしました。3企画を採用。リハーサル室などで開催。テーマは子供向け中心となりました。

4. 地域とつながる青葉区民文化センターの実践

●STスポット連携での学校訪問

今年度も4校に行ってきました。事前に学校と内容を詰め目的に合った出演者を選定。学校プログラムに沿った授業を実施できるようコーディネートをしています。ヴァイオリンの松田理奈さん、笙の宮田まゆみさんなど、自主事業のコンサートへ出演される演奏家にも積極的に協力していただきました。毎回参加した生徒からの暖かいお礼のメッセージを頂戴しています。

●地域の施設や団体との共同事業の実現

地区センターやケアプラザとの連携ネットワークは今年度も充実し、実績を残せました。

ケアプラザへのアウトリーチは、3館開催予定、2館実施・1館はコロナのため次年度へ延期。地区センターへのアウトリーチも約半分が次年度へ延期となりました。

また、地区センターとケアプラザとの連携事業を提案し、夏休み企画として子供向けワークショップを開催しました。コミュニティーハウスへは、フィリアの職員が講師になりクラシック講座を開催しましたが、3月開催予定の講演は中止となっています。地域施設との連携では様々な事業を提案・実施してきましたが、地域の施設側の負担軽減も考え、当館で出演料を負担で開催できる企画を提案するなど、今後も地域へ音楽発信を連携しながら進めていきたいと思っております。

市民団体サポートでは、HP上の整備が進まず、今年度も実現できませんでした。公平感やどこまでの応援なのか、具体的な内容の検討を進め、利用時サポート以上に団体の支援策が何なのかを考えていく必要があります。

※地域事業の詳細は別紙2にて記載します。

(別紙2) 令和元年度(2019年)地域コミュニティ事j9

『「集う」「ふれあう」「活動する」場づくり』を掲げ、地域の課題に取り組み、市民協働の趣旨を活かした各種事業の推進に取り組む
 対応したい地域課題・・・以下の報告では「」内の表記にて課題を表記しています。

「子育て」 子育て世代	「青少年」 青少年課題	「シニア」 高齢者、団塊の世代	「コミュ」 地域コミュニティ
「包括」 障がい、貧困家庭、外国人	「協働」 市民協働、市民支援、地域人材育成	「連携」 地域施設連携	

① エデュケーション&コミュニティープログラム関係

自主事業の中で、地域課題・地域コミュニティを意識した企画

企画・対象	時期等		課題(テーマ)
オープンデー ファミリー 地域の人たち	8月2日	地域にひらけた音楽イベント。気軽にフィリアホールに来ていただき音楽を「聴く・体験・感じる」ことができる内容です。	「子育て」「青少年」
		総入場者数 600名 チケット販売数360名	「包括」「シニア」
ファミリーコンサート ファミリー 地域の人たち	8月 12月	ホールオープン以来続く、幼稚園生～小学生のお子様とファミリーを対象とした「はじめての本格的なクラシック・コンサート」。2部制で、対象年齢を分ける取組実施。	「子育て」「青少年」
		入場者数 夏8月 合計867名 冬12月 合計648名	「包括」
0歳からのキッズのための プチコンサート 親子 0歳～3歳向け	6月11日 9月10日	親子で気軽に音楽に携わる環境を作り生の楽器の素晴らしさに触れてもらう (子育て・障がいの支援に携わった経験者や区民サポーターに協力いただく)	「子育て」「コミュ」
		入場者数 1部 115名 2部 90名 区民サポーター12名 入場者数 1部 136名 2部 56名 区民サポーター9名	
0歳からのバロックコンサート	10月7日	入場者数 1部 43名 2部 35名 オプション企画で上記出演者+講師(芥川)でヴィオラ・ダ・ガンバの講座開催 入場者数 55名 (10/17主催公演を約30名ご招待)	「子育て」
Otomic Time	12月21日 2月23日	親子で音あそび おとみつく たいむ 入場者数 1部35名 2部16名 パパと音あそび 1部 22名 2部 16名	「子育て」
ワークショップ企画 地域の人たち 幼稚園・小学生	8月6日	「フィリアホールで手作り打楽器を演奏しよう」	「子育て」「協働」
		出演者:打楽器演奏者 富田真以子	「包括」
		連携施設:2地区センター(山内・若草台)・4地域ケアプラザ(さつきが丘・青葉台・市ヶ尾・たまプラザ)	
		参加人数 170名	
ジュニア合唱団 青葉区の子ども達	通年練習	区民が区民運営委員となり、練習からコンサートを運営している	「青少年」「包括」
		月2回の練習 施設外でも活動を広げボランティア活動を体験している。	「協働」
		11月24日 青葉区交番の日コンサート 出演	
		12月1日 「TSUKEMEN」出演	
		12月23日 中央幼稚園	
	3月21日	ジュニア合唱団コンサート中止	

② 市民協働・人材育成

●市民協働促進に向けた活動

企画・対象	時期等		課題(テーマ)
区民企画公募・選定・協力実施	通年	公募・選定後に3企画採用	「協働」「包括」
		・2期目10月29日 「街中コミュニティ」 地域デビュー&地域ネットワーク 入場者 270名 ・新規11月30日 「おとのわ」 障がい児・者をキーワードに開催 述べ100名 ・新規8月23日「愉音」区民活動支援センター街活カフェにて協力団体募る入場者数140名 ・11月28日 バリアフリーコンサート 2公演開催 障がい者・介護者をキーワードに開催	
チャリティーコンサート 「あおばカノン」コンサート	3月6日	青葉区内12館のケアプラザと協働で第1回目を開催し今年で3回目となる。 地域の団体や福祉作業所の参加しネットワークを活かした事業でもある。 現在は区民で立ち上げたレントの会を中心に運営、運営会議も開始。 ・「あおばカノン」イベント中止	「協働」「包括」

●市民協働・人材育成に向けた活動

地域事業を展開するには、地域の人達との連携が必須。その地域の人財を育成していくことも重要な役割。

企画・対象	時期等		課題(テーマ)
区民サポーター□ 募集・活動支援	通年	新規サポーター9名 計26名	「協働」
		コンサートチラシ挟み込み:2月15日2名	「コミュ」
		11月28日 0歳からOK バリアフリーコンサート(区民企画)2名 11月18日第2回 サポーターマナー研修「ユニバーサル研修」 2名+職員4名	
区民企画で育成	通年	上記同企画	「協働」
		・街中コミュニティ ホール&ホワイエ 10月29日開催 入場者270名	「コミュ」
		・おとのわ リハーサル室 11月30日開催 述べ100名	
		・愉音 ホワイエ 8月23日 140名 ・愉音「バリアフリーコンサート」11月28日開催 15時公演134名 19時公演350名	
若手音楽家の育成	通年	今年度から35歳以下の若手演奏家・企画者が自ら企画制作を行う公募 企画を、施設利用料の減免・免除によってフォロー・サポートする 「インキュベーション・プログラム」を開始。2019年度は3企画を採択。	「協働」「青少年」
		11月26日 秋の音楽会(主催:櫻田はるか氏)	「コミュ」
		2月4日 チェルカトーレ弦楽四重奏団(主催:同四重奏団)	
		2月24日 どうぶつカーニバル(主催:ペンタス合奏団)	

●地域連携、地域コミュニティに向けた活動

<横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校訪問事業>

平成31年(2019年)の企画

企画・対象	時期等		課題(テーマ)
STスポットアウトリーチ	学校 連携	みたけ台小学校 12月3日 市川和彦 トランペット・クラリネット・ピアノ	「協働」 「連携」
		谷本小学校 11月25日 松田 理奈 ヴァイオリン	
		美しが丘東小学校 9月19日 篠崎陽子 齋藤綾子 打楽器	
		奈良小学校 12月16日 宮田まゆみ 笙	

<地域施設連携・コーディネート事業>

企画・対象	時期等		課題(テーマ)
ケアプラザ連携	適宜	8月6日「フィリアホールで手作り打楽器を演奏しよう」入場者数 170名	「協働」 「連携」
		青葉台・さつきが丘・市ヶ尾・たまプラザ	
		アウトリーチ さつきが丘地域ケアプラザ 10月27日 高橋龍之介サクソカルテット	
		アウトリーチ 恩田地域ケアプラザ 12月5日 木村有沙サクソ 小坂友紀子ピアノ	
		延期アウトリーチ すずき野地域ケアプラザ 山本美樹子ヴァイオリン岩下真麻ピアノ	
地区センター連携	適宜	8月6日 「フィリアホールで手作り打楽器を演奏しよう」山内・若草台	「協働」 「連携」
		1月22日 青葉台コミュニティハウス 芥川講座 (詳細は11月広報で告知)	
		11月9日 若草台地区センター 炭崎友絵(オーボエ)村上あづみ(クラリネット)丸山佳織(ファゴット)	
		3月8日 美しが丘西地区センター 山本美樹子 岩下真麻 延期	
		3月14日 奈良地区センタースプリングコンサート プリマ ステラ マリンバデュオ 延期	
		3月22日 山内地区センター コンサート 炭崎友絵 オーボエ ピアノ 延期	
		2月13日 山内地区センター 和楽器体験&コンサート 三曲協会 入場者53名	

Ⅲ. 令和元年度(2019年)施設運営に関する事業報告

令和元年度の施設運営の基本方針

多くの方にご利用いただき、喜んでいただける施設であり続ける事を目指す。条例や利用要綱に則り、適正運営を前提に、申請・手続き、ご利用本番まで、一定のルールをお守りいただくようお願いしていく。

1. 公正公平な施設運営基本

◎ 公平公正な施設利用の原則・ルールの徹底

○ 公平公正な施設運営。「利用の手引き」や各種「利用案内」も、内容の改編加筆修正を繰り返し、利用者へ配布。ルールを守って、皆様が気持ちよくご利用いただける施設運営を行う。

○ 適切な利用料金と利用区分の設定による運営。料金納入や返還等の基本事項は、利用要綱に明記し、利用者には適宜案内。

◎ 利用料金割引サービスとして、一定条件の下でリハーサル利用、練習利用される方への30%割引実施。

◎ 利用状況の適正把握のため、利用時の利用人数を報告してもらう。ホールでは入場者数も把握して報告励行。

2. よりご利用いただくための運営努力

◎ 稼働促進策

○ 諸室の予約状況の広報徹底、HPから空室状況が確認できるよう変更。空室状況を週単位で掲示

○ 利用できるジャンル形態の拡大へ、リハーサル室での朗読会など利用できるジャンル形態に柔軟に対応し、区民企画や地域連携事業での活用幅を拡充。

○ 抽選後のホール空き日を利用した練習利用促進。ピアニストの夢・カゲレンの企画継続。

○ 「撮影・録音・学校法人」を対象に一次利用での制限緩和。一次利用から、本番利用や恒常的録音利用へ繋げる。

○ 夕夜間利用促進策検討。地域団体活動支援策とも連動

3. ご利用満足度向上のために

◎ 意見要望ヒアリングとその後のPDCAサイクル確立、ご利用者の声を踏まえ、満足度向上に取り組む。

○ ご意見ご要望の収集とPDCA

ご利用状況(人数等)の報告用紙の裏面に、自由記入欄を設け、ご意見ご要望を任意提出していただきます。収集したご意見ご要望は、定期的に内容を検討し、対応方針について検討の上、回答を掲示。四半期ごとに収集したご意見ご要望をモニタリング報告。

◎ 附帯設備や備品の充実

○ サービス充実を求め、備品・附帯設備の購入等検討。照明・音響設備でのご希望に対応できる備品の検討。また利用者の声要望をお聞きし、リハーサル室等の備品・附帯設備の購入も検討。

4. 広報・プロモーション活動、情報提供

◎ 広報・プロモーション活動の新たな試み

○ 初年度改良したイベントカレンダーのブラッシュアップ継続

○ 会報誌の年4回発行。区内の各施設等へ配布。公演への興味喚起、音楽への興味喚起、施設利用や地域事業の情報を掲載。認知度向上、来場促進。

○ 初年度リニューアルしたHPの充実を目指す。公演情報やチケット販売部分の充実。施設利用の説明、諸室予約状況公開等、利便性向上・利用促進に、地域市民団体の紹介、広報活動をサポートの部分も改良。

○ チケット予約システム改良、販売促進・満足度向上に努める。Web先行予約座席指定、セット券や学生券の24時間Web予約など、初年度改善部分の告知徹底、わかりにくいWeb予約方法の周知徹底。

○ SNS等の活用と環境整備

メールマガジンやTwitterの活用充実、Facebook等による利用拡大。情報コーナー等でWi-Fiの利用環境整備。

フィリアホールSNSを活用し、利用団体の広報支援、公演情報やチケット販売情報の情報発信。

5. 年間利用率目標

ホール	69%	自主事業の充実と共に、地域連携事業などでの有効活用を促進します。
リハーサル室	86%	
練習室1	89%	
練習室2	91%	
練習室3	86%	

『令和元年度の施設運営に関する総括』

令和元年(2019年)も、事業計画に基づき、より多くの方にご利用いただき、より満足していただけるような施設を目指してきました。3月のご利用制限がかかってしまいましたが、それまでの年間での稼働は前年度よりも稼働が促進されています。利用収入では、即位に伴う休日増という要因もありますが、稼働面で見ると確実に利用促進が進んだ結果です。一方で、夕夜間の利用促進はまだ十分な成果が上がっているとは言えず、また利用者の高齢化による利用者数の減もまた課題として残ると思います。ご利用者のご意見も数が少なく、広報プロモーション活動でもまだ残された課題はあると思います。

◎ 公平公正な施設利用の原則・ルールの徹底

○ 条例・システムの順守は当然として、利用要綱や利用手引きは、随時問題点課題点を模索し、必要な改良改

編にも取り組んできました。公平公正を基本としながらも、夜間利用促進などでは、運用面に対応できる部分がないかを模索し、改善につなげる努力をしました。

- ホールでのリハーサル利用や練習利用に対して、より柔軟に受入れ、利用の利便性向上と次につながる対応に心がけました。

◎稼働促進策

- 空き日利用の企画は継続し、定着してきた感があります。ピアニストの夢は他の区民文化センターでも多く実施されていますが、申込者が多く、毎回抽選となる状況です。
今年度は、空き日利用の新企画として、神奈川音楽コンクール出場者向けの練習日を設定し、利用者からの反響も多く、主催者との連携して、有効活用できる新たな企画が実行できました。
- 利用ジャンルの拡大は、積極的な工夫は行いませんでしたが、以前よりは「発表会」「ミニコンサート」での利用が増えています。またリトミックや子供むけプログラムなどの利用も増えています。
- 区民企画や地域連携事業でのリハーサル室利用は、その事業拡充に伴い増加しています。また自主企画でも、若手音楽家育成企画での利用や地域連携の幼児向け企画などで、リハ室を積極的に活用しています。
- 録音利用も従来より積極的に受け入れる体制をとり、商業系の録音だけではなく、個人の録音やコンクール等への提出用の録音録画なども実績がありました。
- 3月のコロナ感染対策実施により、利用者への連絡で判明したのが、実は特定の方が月数回利用されているケースが多いことが判明しています。今後の稼働促進の検討材料です。

◎意見要望ヒアリングとその後のPDCAサイクル確立

- 情報コーナーへの意見箱設置は、不特定匿名の投書などの混乱を避けるため実施していません。利用状況報告書の裏面での意見収集は、実施していますが、年間でも20件ほどしかありません。ご利用者側も継続反復のご利用者が多く、批判的なご意見ご要望は少なかつたと思います。今後定期的なお声かけや意見を反映した備品増などの結果を出すことが必要と思います。

◎広報・プロモーション活動の新たな試み

- イベントカレンダー改編による費用削減、その分で新会報誌の発行を行いました。
- 2年目を迎えた会報誌は、季刊発行ができ年4回の発行となりました。巻頭では「音楽への魅力付け」をテーマとするなど、新たなフィリアホール利用者拡大につながる特集は魅力あるものができつつあります。利用促進・地域事業なども少しずつですが、内容が充実してきています。また、地域のお店紹介では地域との連携を模索しています。
- HPの活用は一段と促進されています。HP内のトップページも更新頻度は高く、常にタイムリーな情報を発信しています。3月からのコロナ感染関連ではその威力を十分に発揮しました。コンサートの情報も随時更新され、自主以外の主催者へのリンクができるようになり貸館公演情報の拡大に貢献しています。施設利用情報も内容が随時わかりやすく改編され、「空き室情報」はほぼ週単位で新しい情報発信をしています。
コロナ感染対策以降、HPからのこまめな情報発信、詳細情報の提供の必要性が高まってくる一方、ネット環境に不慣れな方への情報提供の方法や紙媒体の有効活用はまだ必要だと思えます。SNSの利用促進とともに、高齢利用者への広報・アプローチの方法は模索していくべきでしょう。
- チケット予約システムも、WEB予約での座席指定、セット券購入、学生券購入などの変更内容もほぼ定着してきました。まだまだファックスや電話での申し込みも残っていますが、時代のニーズに合った購入方法が満足度を増し、券売の好調にもつながったと思われます。更なる改善を模索し続けます。
- SNSでは、Twitter発信は回数も多く、販促・情報発信が実現しています。コンサート情報だけではなく、アーティスト自身のツイートへのリツイートなど有効活用が進んでいます。メールマガジンも定期発信が定着し、内容もより魅力喚起、興味喚起につながる表現で、コンサートのご案内ができています。
- FreeWifiの利用がどの程度お客様に周知されているかの検証はされていませんが、カウンターなどでのスマホによる検索などでの利用は進んでいるようです。

年間稼働率実績

	目標	実績	(参)~2月	コメント(左記参考の2月まで実績が実態に近い)
ホール	69%	73.5%	79.6%	日数稼働では、ほぼフル稼働。完全未利用日の減頭著
リハーサル室	86%	82.2%	88.8%	目標は達成も、まだ促進する余地はある
練習室1	89%	83.1%	90.4%	目標は達成も、まだ促進する余地はある
練習室2	91%	86.9%	93.9%	目標は達成も、まだ促進する余地はある
練習室3	86%	86.4%	93.3%	目標は達成も、まだ促進する余地はある

Ⅳ. 令和元年度(2019年)施設管理に関する事業報告

令和元年度 施設管理への活動

施設及び設備の維持保全及び管理

「総合的なマネジメント力」を発揮。清掃・衛生管理・保守点検などの業務を的確・スムーズに行い、安全・安心、快適な施設空間提供。費用の適切管理の下、「予防保全」意識し、最小費用で効果の上がる方法を模索。

1. 日常点検と予防保全

予防保全を実現するために、日々の日常点検と定期的な専門会社による点検(定期点検)を確実に実施し、点検内容を確認・検証することで修繕の必要性を判断。

◎舞台設備保守

年間定期保守計画を作成、実施。定期保守での不具合箇所は、適宜判断し必要な対応実施。

スタインウェイは、使用時調律必須。ヤマハは調律任意を継続し、施設で定期保守以外の調律実施。

◎小破修繕への考え方

経年劣化部分の修繕計画、2022年天井工事実施時に実施の基本計画策定。費用を有効的に使用し、安全快適施設環境を維持。新規リースでの購入も視野に入れる。

◎光熱水費について

「光熱水費」については、LED化による電気使用量の削減推進、節水対応など使用量削減に向け、各種対応を検討。

2. 清掃、美観管理業務の方針

施設的美観維持に務め、カーペット部分は定期洗浄とは別に日常的に染み抜き作業。

必要な薬剤や清掃用具を適切に使用し、年間費用範囲で特別清掃実施。

3. 備品管理

備品台帳により、備品及びリース品管理。ホール備品の貸出及び収納の管理徹底。利用者の貸出返還の管理徹底。

4. 防火防災・防犯への取組み

●非常時対応マニュアルの整備

共同防火管理体制下、緊急時は所定の指示に基づき行動。青葉区民文化センター「非常時対応マニュアル」整備。

防犯対策についても、ビル警備保安体制との連携を密にし、適宜適切に対応。

5. 運営組織の構造：少数精鋭により総合力を発揮する人材の配置

●少数精鋭の「フィリアスタッフ」

責任者を含む8名、舞台スタッフは3名で構成。共同事業体各社を含め全員で横断的に業務を遂行。組織の一体感が少数精鋭の「フィリアスタッフ」として機能する。

●スタッフを対象とした各種の研修・ミーティング

定期的な研修やミーティングにより課題の共有、能力ブラッシュアップミーティングは適宜実施し、スタッフ間で意見交換、課題解決策の模索。

『令和元年度 施設管理活動の総括』

1. 日常点検と予防保全・小破修繕

○ 日常点検、定期保守は適宜適切に実施し、経年劣化が進む諸々の問題にも適切に対応しています。

ITVモニター・音響室録音装置等の経年劣化が目立ち、結果的には交換修理での対応を行いました。

○ 小破修繕での対応

今年度修繕は、交換修理も含め、予算枠で収まりました。LED化推進は、客席壁面照明とリハ・練ロビー照明を実施。客席のLED化は電気量軽減に繋がると考えられます。舞台下手扉の不具合箇所も修繕し、併せて木目シートも貼り替えました。舞台照明電球も交換時に予備も購入しています。

※定期保守詳細は別紙3・修繕詳細報告は別紙4・光熱費詳細は別紙5にてまとめ

2. 清掃、美観管理業務の方針

日常清掃は委託業者と連携して適宜実施しています。代表企業の施工管理部門により、年1回清掃のインスペクションを実施し、詳細な部分で日常清掃のアドバイスや必要な薬剤等の指摘を行い、更なる美化促進に努めています。コロナ感染対応として、3月の利用時はアルコール消毒を実施しました。

3. 備品管理

○ 備品台帳は適切に管理しています「備品」の内容精査、消耗備品に該当する内容の削除検討などを行いました。確認できた備品にはシールを貼付しました。

4. 防火防災・防犯への取組み

○ 大規模災害の発生はなく、安全な施設環境を維持することができました。

○ 防犯対応は、ビル警備との連携を強化しており、不審者等の対応も連携しています。

5. 運営組織：少数精鋭で総合力を発揮する人材の配置

○ 責任者を含む8名、舞台スタッフは基本3名。共同事業体各社間の連携はさらに強化されており、担当間での連絡調整は格段に行っています。少数精鋭の一体感のある業務遂行を心がけています。

○ カウンタースタッフやレセプションистも、業務の改善改革の意識を持ち、ご利用者に、より良いサービス・接遇ができるように研修を重ねています。今年度はクレーム対応の研修を実施しています。

人材育成の一環として、区民サポーターを対象とした研修も実施し、接遇の基本マナーや高齢者対応などの研修を実施しました。

(別紙3) 令和元年度(2019年) 施設管理・施設運営実施詳細

1. 維持管理年間実施状況

NO	実施年月日	実施内容	業者名	対応箇所	点検結果等
1	4月10日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	リハーサル室・楽屋3	良好
2	5月7日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	練習室2・3	良好
3	5月23日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	ホールグランドピアノ定期外	良好
4	5月23日	舞台設備定期点検	三精	ホール	特になし
5	6月3日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	リハーサル室・楽屋3	良好
6	7月8日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	練習室2・3	良好
7	8月20日	ヤマハピアノ定期保守	ヤマハ	ホールグランドピアノ リハーサル室・楽屋3	リハーサル室 弦断線
8	9月2日	舞台設備定期点検	三精	ホール	特になし
9	9月2日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	練習室2・3	良好
10	9月3日	舞台照明定期点検	東芝	ホール	特になし
11	9月4日	舞台照明定期点検	剣プロダクション	ホール	特になし
12	9月10日	スタインウェイ1号	松尾楽器	良好	定期保守・調律
13	10月15日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	リハーサル室・楽屋3	良好
14	11月11日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	練習室2・3	良好
15	11月18日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	ホールグランドピアノ	良好
16	12月2日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	リハーサル室・楽屋3	良好
17	1月21日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	練習室2・3	良好
18	1月22日	スタインウェイ2号	松尾楽器	良好	定期保守・調律
19	1月20日	舞台設備定期点検	三精	ホール	特になし
20	1月28日	舞台音響定期点検	ヤマハサウンド	ホール	特になし
21	2月17日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	リハーサル室・楽屋3	良好
22	2月17日	舞台照明定期点検	東芝	ホール	特になし
23	2月18日	舞台照明定期点検	剣プロダクション	ホール	特になし
24	2月18日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	ホールグランドピアノ	良好
25	3月9日	ヤマハピアノ調律	ヤマハ	練習室2・3	良好

※1:スタインウェイピアノは、使用時に調律必須(施設利用者負担)・自主は管理者負担

※ヤマハグランドピアノは、使用時の調律は任意。管理者にて、定期保守以外に3回調律実施

2. 清掃美化・環境管理 年間実施状況

区分	実施内容	実施状況	対応箇所	点検結果等
日常	日常清掃業務	毎日	全室	
定期	床洗浄・ワックス塗布	1回/3ヶ月	舞台袖・楽屋・リハ室等	良好
	カーペット洗浄	1回/年	ホワイエ・楽屋・練習室	一部経年劣化
	窓ガラス(内面)	6回/年	ホワイエ	良好
環境管理	ホール環境測定	4回/年	全室の空調・温度測定	良好
	照度測定	2回/年	ホール内照度測定	良好

※ビル法定点検・測定及び防火対象物点検等はビル側にて実施。

3. 研修・ミーティング等 実施状況

研修名	主催者	実施日	対象者()内は参加者数	概要
消防訓練(2018)	東急スクエア	6月・11月	事務所勤務者 (1)	避難訓練・設備学習等
災害時安否確認訓練(mail)	東急コミュニティー	3カ月毎	事務所・カウンタースタッフ (15)	メールでの安否確認
コンプライアンス教育研修(テキスト)	東急コミュニティー	毎月	事務所・カウンタースタッフ (15)	社内資料配布・自己学習
個人情報保護研修	東急コミュニティー	6月・11月	事務所勤務者	eラーニング・テキスト形式
カウンタースタッフミーティング	フィリアホール	年間3回	カウンタースタッフ+事務所	課題共有・改善案検討
レセプションistミーティング	フィリアホール	年間3回	レセプター+事務所	課題共有・改善案検討

(別紙4)令和元年度(2019年) 工事・修繕報告書

施設名 青葉区民文化センター

金額は税別

NO	工事・修繕期間	工事・修繕内容	金額(円)	業者名
1	7月2日	客席壁面照明LED化(60灯)	221,000	剣プロダクション
2	9月12日	事務所ITVモニター交換修理	86,000	ヤマハサウンドシステム
3	9月20日	音響室レコーダー交換修理(アダプター含む)	130,600	神奈川共立
4	10月16日	リハ・練ロビ一天井DL LED化	161,000	東急ファシリティサービス
5	10月31日	ピアノ椅子交換修理	140,000	ヤマハミュージックリテイリング
6	1月8日	カウンターレジバッテリー交換	30,000	カシオ
7	1月15日	舞台下手扉ドアクローザー交換	900,000	東急リニューアル
8	1月16日	舞台下手扉木目シート貼り	110,000	東急リニューアル
9	1月22日	ピアノ庫空調機修理(ガス充填)	64,000	三菱ビルテクノサービス
10	1月27日	ホワイエ・カウンターITVモニター交換修理	550,000	ヤマハサウンドシステム
11	2月25日	舞台照明電球交換	118,660	神奈川共立
13	2月19日	ホール音響用変圧器絶縁油交換作業	250,000	東急ファシリティサービス(株)
14	2月28日	ホール用電球	88,000	(株)神奈川共立
15	2月28日	ホール用電球	110,000	(株)神奈川共立
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
	年間合計		2,959,260	

令和元年度(2019年) 「青葉区民文化センター(フィリアホール)」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位:円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)		説明
指定管理料	150,352,000		150,352,000	150,352,000	0	100.0%	横浜市より
利用料金収入	26,740,000		26,740,000	25,890,290	849,710	96.8%	3月は利用自粛要請
自主事業(指定管理料充当の自主事業)収入	45,652,000		45,652,000	44,004,204	1,647,796	96.4%	3月公演すべて中止又は延期・2月までの公演は券売好調
自主事業収入			0	0	0		
横浜市費用負担				1,818,000	1,818,000		新型コロナウイルス感染症に関する横浜市の費用負担分
雑入	3,764,000	0	3,764,000	5,014,477	1,250,477	133.2%	
印刷代	96,000		96,000	79,668	16,332	83.0%	
自動販売機手数料	390,000		390,000	432,279	42,279	110.8%	利用増
駐車場利用料収入			0	0	0		
その他()	3,278,000		3,278,000	4,502,530	1,224,530	137.4%	協賛金は予算想定より増・補助金(学校訪問増・音祭り助成有)
収入合計	226,508,000	0	226,508,000	227,078,971	570,971	100.3%	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)		説明
人件費	86,494,000	0	86,494,000	86,494,000	0	100.0%	
給与・賃金	73,807,000		73,807,000	73,807,000	0	100.0%	人件費給与
社会保険料	12,687,000		12,687,000	12,687,000	0	100.0%	上記給与の法定比率
通勤手当	0		0	0	0		
健康診断費			0	0	0		
勤労者福祉共済掛金			0	0	0		
退職給付引当金繰入額			0	0	0		
事務費	9,755,000	0	9,755,000	10,453,916	698,916	107.2%	
旅費	2,590,000		2,590,000	2,203,647	386,353	85.1%	旅費交通費・通勤費:社員交通費他
消耗品費	1,010,000		1,010,000	1,628,706	618,706	161.3%	事務用品(封筒等増)・消耗品(ホール照明購入)・衣服費
会議賄い費			0	0	0		
印刷製本費	665,000		665,000	612,041	52,959	92.0%	名刺・コピー・施設販促は削減
通信費	2,148,000		2,148,000	2,372,487	224,487	110.5%	電話前年並み・郵送料(3月郵送料増)・運搬費
使用料及び賃借料	0		0	0	0		
横浜市への支払分			0	0	0		
その他			0	0	0		
備品購入費	250,000		250,000	604,310	354,310	241.7%	備品購入:経年劣化で購入増
図書購入費	25,000		25,000	19,700	5,300	78.8%	図書購入:新規購入なし
施設賠償責任保険	98,000		98,000	66,065	31,935	67.4%	損害保険料:ボランティア保険(社協等利用)
職員等研修費			0	0	0		
振込手数料			0	0	0		
リース料	2,369,000		2,369,000	2,381,249	12,249	100.5%	各種リース:AEDリース下期より契約変更により発生
手数料	600,000		600,000	565,711	34,289	94.3%	3月分チケット分減
地域協力費			0	0	0		
事業費	53,062,000	0	53,062,000	52,192,787	869,213	98.4%	
自主事業(指定管理料充当の自主事業)費	48,996,000		48,996,000	47,849,976	1,146,024	97.7%	中止延期による出演料減:広報販促費でチラシ印刷増
自主事業費	4,066,000		4,066,000	4,342,811	276,811	106.8%	HP全面改良費用及び随時費用・チケット発券は売上連動で増
管理費	57,631,000	0	57,631,000	56,447,647	1,183,353	97.9%	
光熱水費	9,448,000	0	9,448,000	8,529,187	918,813	90.3%	
電気料金	8,498,000		8,498,000	7,595,952	902,048	89.4%	予算は2018の7%UP:結果は前年並み(3月が半減)
ガス料金	0		0	0	0		該当無し
水道料金	950,000		950,000	933,235	16,765	98.2%	予算は2018年度の2%UP:結果は前年並み(3月が半減)
清掃費	3,185,000		3,185,000	3,102,000	83,000	97.4%	専用清掃(日常・定期)・特別清掃(費用縮小)
修繕費	3,000,000		3,000,000	2,959,260	40,740	98.6%	修繕費:舞台照明管球(交換用)含む
機械警備費			0	0	0		
設備保全費	3,598,000	0	3,598,000	3,457,200	140,800	96.1%	
空調衛生設備保守	221,000		221,000	204,200	16,800	92.4%	空調機点検(予防保全含む)・フィルター交換
消防設備保守	23,000		23,000	23,000	0	100.0%	防火対象物点検
電気設備保守	0		0	0	0		
害虫駆除清掃保守	90,000		90,000	20,000	70,000	22.2%	各種測定予算化:空調・照明等...実績は見積りより減・害虫駆除は清掃費内で
駐車場設備保全費	0		0	0	0		
その他保全費	3,264,000		3,264,000	3,210,000	54,000	98.3%	舞台設備保守:その他予備費支出なし
共益費	38,400,000		38,400,000	38,400,000	0	100.0%	共益負担金
公租公課	11,639,000	0	11,639,000	11,466,000	173,000	98.5%	
事業所税			0	0	0		
消費税	11,579,000		11,579,000	11,439,000	140,000	98.8%	消費税相当分:下期は税率10%
印紙税	60,000		60,000	27,000	33,000	45.0%	収入印紙
その他()			0	0	0		
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	7,927,000	0	7,927,000	7,664,353	262,647	96.7%	
本部分	6,881,000		6,881,000	6,881,000	0	100.0%	本社経費分(固定金額)
当施設分	1,046,000		1,046,000	783,353	262,647	74.9%	事務経費・その他諸費用は支出減
二一ズ対応費			0	0	0		
支出合計	226,508,000	0	226,508,000	224,718,703	1,789,297	99.2%	
差引	0	0	0	2,360,268	2,360,268		
自主事業費収入	0		45,652,000	44,004,204			
自主事業費支出	0		53,062,000	52,192,787			
自主事業収支	0		7,410,000	8,188,583			
管理許可・目的外使用許可収入							
管理許可・目的外使用許可支出							
管理許可・目的外使用許可収支							